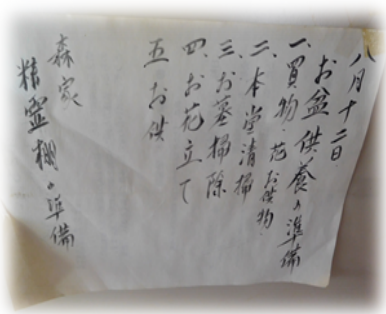


もてなし満載のお盆

「お盆」、正式名は盂蘭盆会(うらぼんえ)です。古代インドの言葉サンスクリット語の **ullambana** (ウランバーナ)を漢字に音写したものです。意味は「^{さかさづ}逆吊り」。地獄図には、逆吊りにされた亡者が大釜の煮えたぎる湯に入れられそうになっています。お釈迦さまがお示しになったお盆は、そういった苦しみのある世界にある亡者に特別に供養する期間です。

里帰りをされる御先祖さまに御供養をささ



げるといふ行為は、それとは別に日本人の美しい「おもてなし」から生まれ、逆吊りの盂蘭盆と自然

に合体したものと考えるのが自然でしょう。

上の写真はウチの母が生前に書いて食器棚の扉の裏に貼った「お盆スケジュールの一部」です。その2ページ目からは、8月13日夕から15日夕までのお霊供膳メニューが詳細に記してあります。

8月7日から「六道さん(六道珍皇寺・東山区)」での「六道まいり(11日まで)」が始まると、妻が住職をしている京都八瀬のお寺では檀家さんの墓参が多くなり水塔婆書きに追われ

ます。訪れたおばあちゃんが、「もうしんどいから並ぶことやめようと思いつつ御先祖さん



の事思うとついつい並んでしまいました」という意を毎年言われます。御先祖の精

霊は六道の辻を抜けて六道珍皇寺境内にある井戸からお出でになり、御宗旨を問わず京都の人はお迎えに行きます。それが4日間行われる「六道まいり」で、朝から夜10時頃まで連日賑わいます。

私も昨年最終日に行きました。門前の道、境内参道に多数の花屋さんが「^{こうやまき}高野槇」を売っています。1本1,500円程。購入後「迎え鐘」をつかさせてもらうため並びます。これが先ほどおばあちゃんが言っていたことです。炎天下に30分以上並ぶのもザラ。この鐘の音をたよりにすれば御先祖の精霊は六道の辻で迷うことはありません。この鐘の撞き方は一種独特です。機会があれば是非一度体験してみてください。お出になられた御精霊(おしょうらいさん)は購入した高野槇の葉に乗り、家まで丁寧に運ばれて懐かしい我が家へ「里帰り」となるのです。

ちなみに16日のお送りの寺は、矢田寺(やたでら、三条寺町)です。「送り鐘」を撞いて静かにお帰りを願います。

俊徳丸

